



THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA-RYOHOKU

広島陵北ロータリークラブ

- The Weekly Report -

～ クラブのテーマ ～

こころゆたかなロータリアン

～ 本年度会長方針 ～

奉仕の心で未来を築こう



2009-2010年度
R.I.会長よりのメッセージ

第915回例会 2010年1月13日 No.887号

■ 会長時間



会長 井林 孝二

会員の皆様、こんにちは。お客様にはようこそお越し下さいました。どうぞごゆっくりお過ごし下さい。今月は、ロータリー理解月間ということで、少しロータリーの事についてふれてみます。

1915年のロータリーには、既に「理論及び教育担当委員会」という委員があったそうです。委員長は、フィラデルフィアRCのレストラン経営を職業分類とするガイ・ガンディッカーという人です。この委員会が、1915年に「ロータリー通解」というパンフレットを発行しました。これは、ロータリーで初めての「手続要覧」のようなものだったようです。この通解は、1971年になってはじめて全文日本語に翻訳されました。今日は、この内容を少し皆様に御紹介します。

まず、第一にロータリーの目的として極めて簡単に「個人の向上」ということをあげております。それから第二にロータリアンたるものの成すべきこととして、「出席」をあげております。この出席について、ガイ・ガンディッカーは、出席したりしなかったりする人はロータリアンにならない方がよい。その理由として、ロータリークラブはいわば電流の通った電線のようなもので、電線というものは、電流が通ったり通らなかつたりするようでは役に立たないのであるとっております。

また、ロータリーの親睦につきましても、良き親睦は決してロータリーのすべてではない、それはロータリーが成長して行くための土壌に過ぎない、ともっております。

最後にロータリアンの義務にふれまして、大いなる義務を負うよりは、ひたすらロータリーの細かい義務を果たすべし、さればロータリーの歯車は、円滑にして互いに相和するを得んと言っております。

ガイ・ガンディッカー氏は、1923～24年度のRI会長をされました。ちょうど関東大震災の時です。この時彼は、ガイ・ガンディッカーの名前で国際ロータリーから25,000ドルの義損金を送ってきたそうです。大金です。この時東京RCクラブの会員は、この金額にびっくりして、それまでちゃらんぼらんであった例会を以後襟を正して毎週開くようになったそうです。本日はどうもありがとうございました。

今回の例会(1月20日)

夜間例会

『広島安佐RCとの合同夜間例会』

次回の例会(1月27日)

会員卓話

割方 寿祥 会員 大内 稔康 会員

出席報告

(山田例会運営委員)

1月13(水)出席者

会員総数	43名
出席会員	36名
欠席会員	7名
ご来賓	0名
ご来客	2名
ゲスト	0名

来客者紹介

(高野親睦家族委員)

1月13(水)出席者

広島RC	1名
広島東南RC	1名

幹事報告(川中幹事)

■ 例会変更

- ・ 広島東南RC 「創立50周年記念式典・祝賀会」
【とき】 2月1日(月) 17:00～ 【※同日変更】
【ところ】 ANAクラウンプラザホテル広島

■ BOX配布物

- ・ 次週1月20日(水)の例会は「広島安佐RCとの合同夜間例会」へ変更をしておりますので、お間違えのないようご注意ください。なお、急にご欠席される方は必ず事務局までご連絡ください。
(リーガロイヤルホテル広島 3階「宮島の間」18:30～)
- ・ 使用済み切手収集箱を各テーブルに置いておりますので、ご協力を頂ける方は、ご自由にお持ち帰りください。



::::SMILE BOX

山田和弘 会員

クリスマス夜間例会で写った夫婦写真をプリントしていただきありがとうございました。

ニコニコ箱当日計 4,000円

ニコニコ箱累計 495,000円

【例会】 毎週水曜日(12:30～13:30) / リーガロイヤルホテル広島(広島市中区基町6-78) / 082-502-1121

【会長】井林 孝二 【事務所】広島市中区基町6-78 リーガロイヤルホテル広島13F 【TEL】082-221-4894

【幹事】川中 敬三 【ホームページ】http://www.ryohoku-rc.jp/ 【FAX】082-221-4870

月間卓話

『国際ロータリーと日本のロータリークラブ』

～ ロータリー理解推進月間に因んで～

会員研修委員会 委員長

森川 和彦 会員



ロータリーにとって大事なことは綱領にまとめてありますが、それは歴史を踏まえたエッセンスなので、綱領だけでは全体を理解するのは困難です。その意味で、ロータリーのあり方や活動について、諸先輩が100年の歴史の中でどのような議論をされたかを紐解くことは有益であろうと思います。

今月のロータリーの友に、ポール・ハリスが1911年に1月に投稿した「合理的ロータリアニズム」という論文が掲載されています。この中でハリスは、寛容の精神を説いた後、クラブのあり方についての意見を3つの立場に分けています。すなわち、①クラブの目的は仕事から離れての休息とレクリエーションにある、仕事上の便宜を得ることをロータリーの特色とすべきでないとする倫理則男君、②ロータリーは仕事上の目的で集まった異なる業種の事業家のグループで、その主な特徴はビジネス団体だとする商売努君、③ロータリーの構成は商売上の取引を避けがたいものになっているが、仕事を目的の中心とするべきではない、いつも商売のことばかりを考えていては見識も小さくなるし、地域社会のことを考え、そのために尽くすことは仕事上のプラスにもなるだろうとする博愛均君です。ハリスは、このように3つ見解を整理した後、ロータリアンにもその他の人々にも受け入れられる見解は、この3つのどれかに近いところにある、ロータリーは巨大にして強力な組織であり、適切に導かれなければならない、みなさんはどのような立場をとりますかと投げかけて文を終わっています。私の要約はハリスの意を十分に尽くしていないと思いますので、是非、原文(ロータリーの友・2010年1月号6頁～)にあたっただきたいと思います。

これを読んで思うのは、ロータリーのあり方は100年経った今でも変わらないテーマなのだなということです。職業奉仕か社会奉仕かは、今なお議論が続けられている問題ですが、いずれにしても社会から受け入れられるようなクラブでなければならないことには異論はないでしょう。そして、ハリスが議論の前に寛容の精神を説いたこと、国際ロータリーでも個々のクラブのあり方には自治が認められていることからすれば、もちろん綱領や規約の範囲内ということではありますが、個々のクラブがよりよきクラブのあり方を求めて模索することが許されているのではないかと思います。その模索を、寛容の精神で受け入れるべきだ、というのがハリスの意図なのではないでしょうか。みなさんは、どう思われますか。